

# 若者の都会型娯楽志向を地方型娯楽志向へ転換させる方策

学籍番号 1120326 氏名 弘嶋 賢之

高知工科大学工学部社会システム工学科

地方部の若者は、自らの住む地域の豊かな自然に目を向けず、大都会と同様の娯楽を求めているように感じられる。遊びの内容はカラオケ、ボウリングなど大都市圏と変わらない都会型(機械的)の娯楽に集中し、豊かな自然を活用した地方型の娯楽に目を向ける機会が少ない。その理由として、若者自身の志向の問題のほか、地方型の遊びの多くはスキューバダイビングやサーフィン、ヨット等に代表されるように、楽しむためにはある程度の訓練が必要であることや、資金面の問題、遊びの拠点となる施設の問題等が挙げられる。本研究は地方部に住む若者が都会型の遊びから地方型の遊びへ転換するために必要な方策を提案するものである。

**Key Words** :Rural-areas typeplay、Public accommodations、Cycling

## 1. はじめに

現在、地方部の学生の遊ぶ場所は固定化されているのではないかと感じる。特にボウリングやカラオケ、ゲームセンター等といった都会型(機械的)な遊びに集中している。筆者もその一人であり、高知県外出身の友人から「高知県でしかできない遊びは何か」と聞かれた際に答えに窮した経験がある。生まれも育ちも高知県でありながら、地方型の遊びには目を向けてなかったと気づかされた。高知県は他県に比べて自然が豊かで山、川、海にも恵まれている。この自然を活かした地方型な遊びなどを多くの学生に広めていくにはどうすればいいのか提案していきたいと思う。

## 2. 遊びについて

### 2.1 遊びとは何か

動物は“遊び”をする。動物にとって遊びとは生きて行くために必要な方法を学ぶためのものである。人間も同様に、子供の頃の遊びは生きて行くために必要な方策を学ぶものとなっている。しかし、大人になると遊びの目的が変質してくる。

### 2.2 成人の遊びの目的

社交的遊び、技の遊び、戸外の遊び、根気の遊び、建設の遊びなど多種多様である。また子供の頃の遊びから成長するにしたがって遊びの種類や方法、費やす時間、お金も大きく変化していき、その目的は以下の様なものとなってゆく。筆者は、なぜ“遊び”という行動を人間がするのか、その遊びの効用について列挙してみた。

効用①：休憩(息抜き)、趣味、リラックス、楽しむ、ストレスを溜めない

効用②仕事・勉学以外の人間関係の構築機会

(趣味人の集まり、クラブ、サークル、運動部・文化部等の部活)

1) 上達による達成感の獲得

2) 他人との協調、自己主張の機会

3) 地位を与えられたことに対する責任感

4) 結果に対する自信

5) 「役に立っている」という実感

6) 健康的な心身の維持

とする。

一方、ヨハンボイシंगाは「遊びは仕事の準備訓練ではない。それが、大人になってからの活動を先取りしているかに見えるのは、外見だけのことである。遊びは特定の職業の訓練をするのではなく、障害を克服し困難に立ち向かう能力を高めさせることによって、人生全体への案内役を果たしているのだ。」<sup>1)</sup>としている。

またホイジンガは“遊び”の構成要素として、「遊びは自由な行為であり『ほんとのことではない』としてありきたりの生活の埒外にあること」および「自ら進んで限定した時間と空間の中で遂行され、一定の法則に従って秩序正しく進行するもの。仮装をもってありきたりの世界とは別のものであること」を挙げている。これらのことを筆者なりに解釈すれば、“遊び”には時間、空間、秩序が非日常のものであることが必要であると捉えることができる。時間に関しては時間がゆっくり流れるように感じる、または時間を忘れる(エキサイト)するかどうか。非日常の空間に関しては都市部から離れる、または完全な人口空間であるかどうか。非日常の秩序に関してはスポーツ、ゲーム的活動(非生産的活動)であるか。以上の3つだと考える。

### 2.3 都会型(機械的)な遊びの種類と問題点

都会型(機械的)な遊びとして、例えばカラオケ、ゲームセンター、ボウリング、パチンコ、映画、遊園地、家庭用ゲーム、オンラインゲーム、DVD鑑賞などが挙げられる。

このような都会型(機械的)な遊びが人にもたらす効果や問題点について考察した。特に家庭用テレビゲーム、オンラインゲームといったコンピューターゲームは現実の人間関係を遮断して行い、非日常の時間・空間・秩序のもとで行われるものであり、

“遊び”の要素を満たしているといえる。しかしながら、現実の人間関係を遮断することから過度の没入はコミュニケーション能力の低下を招く。最近では日本人学生のコミュニケーション能力の低さを指摘する意見が多く、現実に就職活動の面接などでも苦しんでいる人が数多くいる。また、健康面からみてもボウリング以外はほとんど身体を動かさないため、運動不足の解消効果は薄い。以上の2つが都会型(機械的)な遊びの問題点だと考える。

#### 2.4 地方型な遊びの種類・運動の効果・問題点

一方、地方型としては、サーフィン、海釣り、川釣り、乗馬、スキー、スノーボード、ヨット、キャンプ、カヌー、ゴルフ、登山、ダイビング、サイクリングなどが挙げられる。

都会型(機械的)な遊びの課題として挙げたコミュニケーション不足という点に関しては地方型な遊びの方が有利であると考えられる。たとえば、登山やサイクリング、キャンプなどではチームワークや団結力が必要になってくる。同時に、幅広い年齢の方も参加できるので、上下関係との付き合い方や年配の方とコミュニケーションをとることにより自分の考え方も幅が広がると思われる。そのような場に若者が参加することによってコミュニケーション能力の訓練になることも考えられる。

また運動の効果についても考察した。運動の効果は以下の三つの効果で成り立っているとされている<sup>5)</sup>。

第一に、「生理的効果」で運動をすることによってエネルギー消費量が一時的に高まる。また継続的な運動は体力を向上させ、生活習慣病を防ぐのに役立つ。主な効果としては①エネルギー代謝のアップ②体力の向上③生理的機能の向上④生活習慣病の予防(肥満、糖尿病、高血圧症、高脂血症、脳卒中、心臓病、骨粗鬆症など)。

第二に「精神的効果」で運動は汗を流す喜びを与え、体力の向上によって健康感を実行させ、ストレスから解放する効果がある。主な効果としては①気晴らし②健康の向上③生活の充実感④ストレスの解放⑤健康的ライフスタイルの選択である。

第三に「社会的効果」で家族や地域社会の人々とともに運動やスポーツを楽しむことは、家族との絆を深め、友人をつくる機会などを与える。主な効果としては①家族との関係の改善、②地域社会の人間関係などがある。

一方で、地方型の遊びについても解決すべき問題がある。第一に資金面の問題が挙げられる。スキー・スノーボードやサーフィン、ダイビングといった遊びは道具などをそろえる必要がある。レンタルができるにしても1回遊ぶのに7000~12000円必要であり、価格が高いことが問題点である。

こういった問題のない地方型の遊びとしてハイキングやサイクリングなどを挙げることができる。ハイキングは基本的に無料であるし、サイクリングの場合、レンタルするにしても1回(2時間まで)200円で可能である。

### 3. 公的宿泊施設の現状調査

先の“遊び”に関する考察のなかで、時間、空間、秩序が非日常のものであることが必要であると述べた。もちろん日帰りでも遊びの効果は得られるのだが、一泊することによる時間・空間のリフレッシュ効果は大きい。ハイキングやサイクリングなどの安価な遊びにおいてもその効果を最大限に発揮するには宿泊施設を拠点とすることが有効であると考えられる。

高知県だけでなく、多くの地域で公的資金を財源とした宿泊施設が建設されている。公的宿泊施設の設定趣旨、目的は「社会保険の被保険者又は年金受給者等の福祉や健康の増進、雇用の安定及び勤労意欲の向上に資すること」である。しかしながら、これらの公的宿泊施設の利用者数は減少をつづけており、高知県内でも存続について議論されている施設が存在する。

本研究では、これまで述べてきた“地方型”の若者の遊びの具体案の一つとして、サイクリングと公的宿泊施設を繋げることにより多くの若者に地方型の遊びを身近に感じてもらうと同時に、公的宿泊施設の利用者数増加の実現を図る方策について検討を行った。

#### 3.1 全国にある公共宿泊施設の現状と推移

平成8年度末の全国における公的宿泊施設は、各施設種別を合計すると施設数366施設、客室数12,694室、宿泊定員41,187人である。施設数の推移についてみると、昭和51年度末(268施設)から昭和61年度末までの10年間では66施設(24%)増加した。昭和61年度末(334施設)から平成8年度末までの10年間では32施設(9%)の増加となっていた。

一方、客室数、定員数の推移をみると、昭和61年度末までの10年間ではそれぞれ、2,897室(29%)、9,135人(28%)増加していて、この間の伸び率は施設数の増加を上回っていた。この間は、施設建設投資に対して宿泊需要が追い付かない状態であり、各施設が客室数・定員数の増設を行っていた状態であったのではないかと推測できる。

しかしながら、バブル経済の崩壊後は宿泊需要が急速に縮小し、2000年代に入ると経営破綻した施設も出てきた。現在はその再活用が課題となっている。

#### 3.2 高知県内の公共宿泊私設についての調査分析

現在の高知県にあるサイクリングコース数と公的宿泊施設を調査した。高知県には黒潮四万十自転車道、高知室戸岬自転車道・南国自転車道、香南市サイクリングターミナルの3つのコースが主になっている。また、公的宿泊施設数は全部で37施設あった。これらの施設の利用のされ方としては主に小学校~高等学校の教育(遠足や宿泊学習など)、スポーツ大会の競技場といったことに利用がされている。しかし学校の教育や月に数回しかないスポーツ大会のみでは十分な集客は難しいのではという疑問も同時に抱いた。公的施設の稼働率向上を目的として、高知県観光協会や各宿泊施設など旅行関係業界は県外からの宿泊客増加を志向し、観光資源の充実を核とし

た取り組みをおこなっている。しかし、高知県外からの旅客誘致は競争相手となる地域も多い。こういった取組と同時に、地域に住む若者による活用を増やすことも重要ではないかと考える。そのためには公的宿泊施設は地方型の遊びとの繋がりを持ち、若者に対して地方型の遊びを提供する拠点にすべきであると考える。

高知県内の公的宿泊施設のうち、地方型の遊びの拠点機能を有しているのは37施設のうち、香南市夜須町にある「香南市サイクリングターミナル」のみであった。現在は「しおや宿」と愛称がつけられている。本研究ではしおや宿をケーススタディの題材として取り上げ、現状に関するヒアリング調査を実施するとともに、実際にサイクリングをしてコースや安全性、魅力などを確認した。そして学生側にもアンケートを実施し、学生側の意識に関する現状調査を行った。

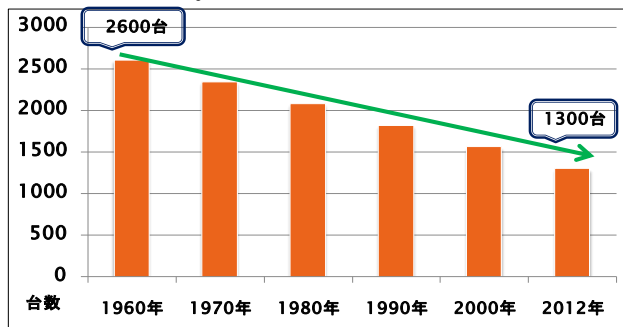
### 3.3 ヒアリング調査

しおや宿の運営責任者に対し、①運営開始日はいつからか ②建設費はいくらかかったか ③利用客は年間・月にどれくらいいるか。過去10年で利用客は増加、横ばい、減少傾向のどれにあたるか に関する三つの質問を行った。

結果は

- ①1958年(昭和60年)4月。
- ②2億4500万円。
- ③(貸出)年間1300~1400台。

その中でも一番貸出が多い月は5月で約300台の貸出がある。その理由としてゴールデンウィークを利用し多くの人があるためである。逆に一番貸出が少ない月は2月で10台前半だった。この理由は気温が寒いためである。



グラフ1. 年間の貸出状況

年間の貸出状況は図1をみても分かるように過去10年減少傾向にあることが分かる。

次いで、現状に対する対応策について質問を行った。質問内容は①ヒアリング調査で利用客は年々減少傾向にあると聞いていたが何か対策等はしているか。②貴施設の魅力は何か。③どの年代を対象にしているか。また利用割合はどの年代が一番多いか。以上の三つの質問を行った。調査結果は

① に対策等はしていない。

唯一しているのは5月5日(こどもの日)は無料で貸出している。また道の駅にパンフレットを置かせて

もらっている。小学生、中学生などの学生向けのバレー大会などに協賛して宣伝している。金額を学生向けにする。サイクリング目的の人に限らず、一般の方が宿泊できる宿。

②料金は学生向けにしているので安い。料理(海のものを使ったものがウリ)。

③対象はお子様連れ(小学校低学年)のご家族。特に子供の自転車の練習が目的である。以上のことが分かった。

### 3.5 現地調査

実際にしおや宿に足を運びサイクリングを行った。



写真1(左). 二人乗り用の自転車

写真2(右). サイクリングコースの種類と距離数

自転車は通常タイプの自転車、一文字の自転車、写真1のような二人乗り用の自転車などあったが、マウンテンバイクなどといったスポーツタイプの自転車がなかった。この点からも、若者をターゲットにした運営はなされていないことが実感できた。料金は2時間まで210円でとてもリーズナブルな金額で乗ることができた。この点は、若者の利用に対しては有利であろう。コースはA、B、Cの3コースがあり、Aコースは安芸市方面に行くコースで34.5km、Bコースは月見山方面に行くコースで8km、Cコースは野市・赤岡方面に行くコースで22kmであることが分かった。最初にAコースに行ってきた。



写真3. 安芸市方面のサイクリングコース1

安芸市方面に進んで行くと写真3のようなコースが出てくる。この場所は実際に人通りも少なくサイクリングにも適していると感じた。



写真4(左). 安芸市方面のサイクリングコース2

写真5(右). 野市・赤岡、月見山コース1

しかし進んでいくと途中から国道55号線(写真4)に合流し歩道を走行しなければならなくなった。ここから人通りも多くなり乗りなれていない自転車は危険だと感じた。次にB、Cコース方面に進んでみた。



写真6(左)．野市・赤岡、月見山コース2

写真7(右)．野市・赤岡、月見山コース3

B、Cコースはヤシパークの海岸なども見ることができ風景は綺麗だった。しかしこちらのコースも途中から国道55号線(写真7)に合流するような形になり人通りも多くなった。

実際にこのサイクリングを利用して感じたことは安全性に関する再検討と、若者を対象とした自転車の導入であると感じた。特に安全性に関しては、人通りも多くなり車も走っている中で乗りなれない自転車で走ると事故になりかねない。ましてや対象者を小学校低学年にしているとなるとなおさら危険であり、この点は若者に対しても同様であると考えられる。

コース設定はサイクリングターミナルが提供するサービスの根幹であり、安全性と娯楽性の両立を備えていなければならない。現在のコースは海岸沿いの国道55線や並行する道路を中心とした一本道を往復するコースが基本となった構成になっている。この構成では、帰り道は行きと同じ風景を眺めつつ戻ってくることになる。高知県の地形的特性として、海と山・川が大変近いことが挙げられる。臨海の現コースを確保しつつ、例えば、夜須川や香宗川等の沿川にサイクリングロードを整備し、夜須町の山間部や三宝山との接続を図る、などといったことも考えられる。こういったコースに設定することにより、行きと帰りでは違う風景も眺めることができる。また体力のある若者向けとして設定することにより、スポーツタイプの自転車を導入することで若者の利用促進を図ることができるのではないだろうか。

#### 4. アンケート調査

次いで、学生側の“遊び”に対する現状調査の意識を確認するためアンケート調査を行った。

##### 質問項目の概要

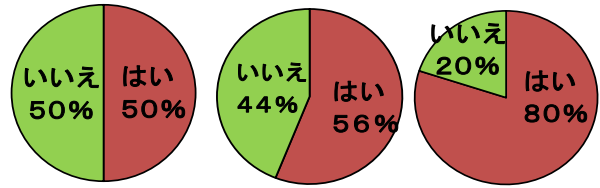
①普段何をして遊んでいますか。②遊ぶ時間帯は何時からですか。平日と休日の2つ教えてください。③1回遊ぶのに使う平均的金額はいくらですか。④遊ぶ頻度は週に何回ですか。⑤普段、地方型の遊びをしていますか。またはしたことがありますか。⑥サイクリングには興味はありますか。⑦サイクリングと宿泊施設(料金は学生向け、テニスコートなどあり)が一緒になっていたら利用してみたいとおもいますか。

##### 期間・人数・対象者・回答の収集方法

期間：平成24年2月1～3日。人数：100人。対象者：高知工科大生。回答の収集方法：自分で直接回収しに取りに行く。

#### 4.2 アンケート結果

下図は若者の遊びの現状、サイクリングへの興味、宿泊施設との連携に関する意識に関する質問への回答を示すものである。



グラフ1(左)．普段地方型の遊びをしているか。またはしたことがあるか。

グラフ2(中)．サイクリングに興味はあるか。

グラフ3(右)．サイクリングと宿泊施設(料金は学生向け、テニスコートなどあり)が一緒になっていたら利用してみたいと思うか。

『普段地方型のレジャーをしているか、またはしたことがあるか』という質問に対して半数が「行っている」と回答した。遊びの内容については、釣りやスキー、スノーボード、キャンプといった回答が多かった。

『サイクリングに興味はあるか』という質問に対しては「はい」という回答が半数以上となった。サイクリングターミナル側は対象者を小学校の低学年としているが、この結果から、若者側の需要はあることが分かった。

#### 5. 結論

都会型の遊びから地方型の遊びへ転換するために必要な提案は、公的宿泊施設は地方型の遊びとの繋がりを持ち、若者に対して地方型の遊びを提供する拠点にすることである。若者の問題点として①上達による達成感の獲得。②他人との協調、自己主張の機会。③地位を与えられたことに対する責任感などといった遊びの効用②の啓発が必要である。提供者側の問題点は①若者に集客ターゲットになっていない。②若者に存在が知られていないといった現状がある。以上のことから若者側、公共宿泊施設側が取り組むべきことは“地方型の遊び”を提案する学生組織、NPOの設立。若者の利用に目を向けた運用や施設の改善。広告・宣伝などといったことを行っていく必要がある。

#### 参考文献

- 1) 遊びと人間 ロジェ・カイヨワ 多田道太郎・塚崎幹夫 訳 講談社学術文庫920
- 2) 安くて気軽に公共の宿 <http://kitagawa.tv/pyado/>
- 3) JAPANCYCLING ASSOCIATION <http://www.j-cycling.org/ct/>
- 4) 公的宿泊施設 運営状況 <http://report.jbaudit.go.jp/org/pdf/h09-0429-syukuhaku.pdf#search=>
- 5) 運動の効果 <http://www.kenko-sapporo21.jp/dai-4/uj-kouka.html>
- 6) かんぼの宿伊野 <http://www.kanponoyado.japanpost.jp/yado/ino/>